

2011年6月13日

各 位

株式会社大京

停電時にエレベーターを稼働させるための自家発電設備を導入 (2011年10月着工物件から順次導入) 災害時に備えて防災備蓄品の内容を大幅に増加 (2011年7月着工物件から順次導入)

大京では、不慮の停電などによりマンションのエレベーターが動かない場合に対応して、2011年10月着工の中層（10階）以上、かつ中規模以上の新築マンションに自家発電設備を順次導入することとしました。

また、東日本大震災を受けて、従来から災害時の備えとして各マンションに備え付けておりました「防災備蓄品」の見直しを行い、2011年7月着工の新築マンションから「防災備蓄品」の内容を大幅に増加させ標準装備することとしました。

1. 自家発電設備の導入

不慮の停電などによりマンション内のエレベーターが動かなくなった場合の対策として、当社では、2011年10月に着工する中層（10階）以上、かつ中規模以上の新築マンションに、停電した段階から10時間程度運転できるような自家発電設備を導入することといたしました。

高層マンションのエレベーターは、これまで非常用自家発電設備によって非常時に停電が発生した場合、約1時間は動くように設計されていましたが、タンク容量を増加し長時間運転が可能となります。

なお、自家発電設備のほか蓄電池によるエレベーターの稼働も検討しております。



導入する自家発電機（イメージ写真）

2. 防災備蓄品の増強

大京グループでは、東日本大震災においてグループを挙げて災害支援を実施いたしました。その際に管理組合や入居者、災害支援担当者などから多くの現場の声をいただきました。中でも、「震災時に実際に使用したもの」「あった方が良かったもの」については、ポータブル発電機や携帯ラジオ等の意見が多かったことから、これまでマンション内の「防災備蓄庫」に備蓄していた「防災備蓄品」の内容を大幅に増加させることとし、2011年7月着工のマンションから新たな「防災備蓄品」を標準装備することとしました。

なお、大京では、阪神・淡路大震災の後、いち早く「防災備蓄庫」を標準設置しておりましたが、今回は、この防災備蓄庫の中に備え置く内容を充実させたものです。

<「防災備蓄品」の内容…50世帯の場合>

No.	備蓄品名	数量	震災時のお客さま等からの声・要望
1	便袋（簡易トイレ）★	1,000枚 （一世帯20枚）	1階の共用トイレは使えたものの不足していた。
2	キュービージャグ （飲料水用ポリ容器）	10L 50個 （一世帯1個）	鍋、バケツよりも水の運搬・確保が便利だった。
3	ブルーシート	4枚	タイルの剥がれ、ガラスの破損等から居住者の安全を確保するために必要だった。 *震災後ホームセンターではほとんど品切れとなっていた。
4	標識ロープ（100m巻）	1巻	
5	カラーコーン	5個	
6	布テープ	5個	
7	携帯充電ラジオライト （電池含む）	2個	テレビやインターネットの利用が出来ない場合、情報不足を補うため、ラジオとライトが一体となったものが便利であった。
8	シート型ホワイトボード	1セット	ホワイトボードがあった管理組合では、情報伝達手段として利用し自主性のある行動ができてきた。
9	ポータブル発電機	1台	購入していた管理組合では、携帯電話等の充電を行うのに大変役立った。
10	家庭用ガスボンベ	7本	管理組合で炊き出し用として共有できた。

注. ★印は従来の備蓄品



便袋



キュービージャグ



ブルーシート



標識ロープ（100m巻）



カラーコーン



布テープ



携帯充電ラジオライト



シート型ホワイトボード



ポータブル発電機



家庭用ガスボンベ

3. マンションギャラリーにおける防災備蓄品

マンションギャラリーでも、お客さま来場時に万一地震等の震災が発生した場合に備えて、防災備蓄品（アルミ製毛布、パンの缶詰など）を常備することとしました。防災備蓄品は、7月以降開設される全てのマンションギャラリーに常備されます。

以上

このニュースリリースに関するお問い合わせ先
株式会社大京 広報・IR室（伊奈、丸山） TEL：03-3475-3802